

■福島県飯舘村の震災・原発被災の現状

災害対策本部長（飯舘村長） 菅野典雄

1、集団避難の状況

本日午後1時、集団避難を希望する村民等を対象に移送を開始した。

第1陣の集団避難者は313人。自衛隊準備のバス3台と村のスクールバス5台で、現地の避難者支援に就く村職員3人と一緒にスクリーニング地点の福島市松川サービスエリアに向かい、スクリーニング後に鹿沼市に移動する。

集団避難者の中には南相馬市や双葉郡などの被災地区から村の施設「いちばん館」に一時避難していた78人も鹿沼市へ移動する。

出発時は、村長はじめ村職員、支援活動にあたる村民、村の施設に残留している避難者など多くの人々が、集団避難者に皆さんが一日でも早く村に戻れることを祈り、また行路と現地での無事を願って、バスを見送った。

随行する村職員は5日間交代のシフトで対応する。

2、車の燃料

これまで全く入ってこなかった燃料は、まだ制限はあるものの少しずつ供給されはじめてきた。しかし、自主避難を希望している村民の中には、移動手段である車のガソリンが足りなくて移動を制限されているケースがあるため、村内のガソリンスタンド3店で給油できるチケットを村から住民向けに交付した。

燃料代金は自己負担となるが、1台あたり普通乗用車20L、軽自動車13Lと数量を決め、スタンド3店を地区割りして多くの希望者にいきわたるよう配慮し、混乱を回避した。スタンドではスムーズに給油が進んでいる。

3、医薬品、医療

クスリ、特に慢性疾患など持病をもつ高齢者などのクスリの入手が困難になっている。

薬の対応ができなくなった村診療所は19日午後から21日まで休診となり、また、診療所に隣接する薬局も在庫がなくなり閉店しているため、となりの川俣町や福島市などへ車で行くことになる。しかし、開いている薬局の情報が少なく、すぐにたどり着けないなど、村民はイライラを募らせている。

また、ひとり暮らしの高齢者などを訪問する保健師の数は3人と少なく、保健活動分野のマンパワーを必要としている。

4、放射線数値と対応

数値は「20マイクロシーベルト」付近。19日午前中までのグラフは図1である。

屋内退避地区の30Kmを超える範囲でも、高い数値が報道され、住民の不安は募る一方。

村対策本部から県へ随時判断を仰いでいるが、タイムリーでなく、原発事故被災地の現場は混乱が生じている。

ヨウ素剤12,000個を確保も、19日現在住民投与は未実施。

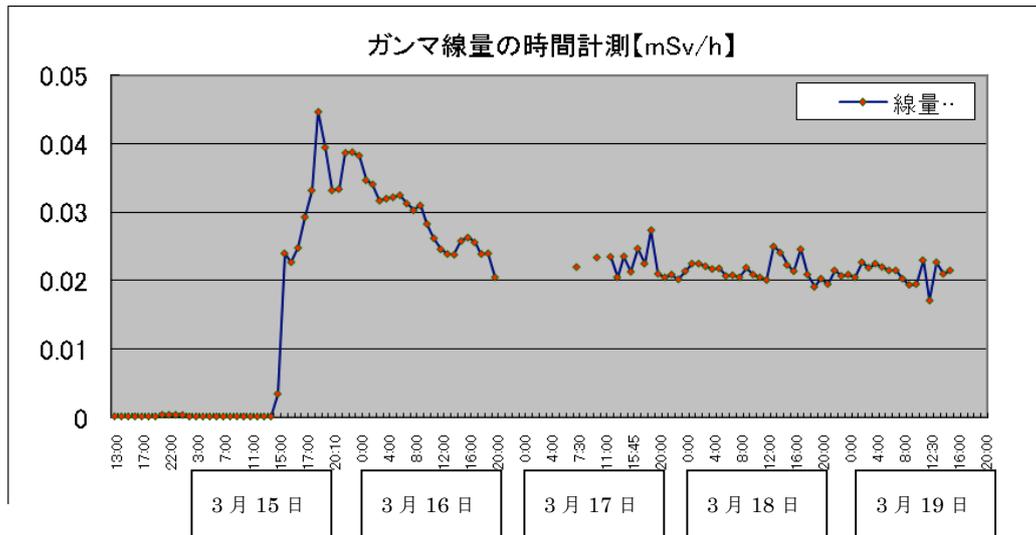


図1 飯舘村役場近くの「いちばん館」前で計測

5. 今後の対応

<決定事項>

- ・ 明日20日午前、第2陣の集団自主避難を行う。
- ・ 集団避難先は、栃木県内の指定施設。
- ・ 計画輸送人数は300人程度を想定している。本日19日夕刻まで行政区長を通して集約する。
- ・ 輸送は大型バスで、陸上自衛隊福島駐屯、村スクールバス、民間バスを手配。
- ・ 村外からの「新たな避難者」を村の施設には受け入れすることができないため、村外へ移動していただくことをお願いする。
- ・ ただし、村内の屋内退避地区である30Km圏内にある村民の希望があれば、「いちばん館」に受け入れる。
- ・ 自主避難を希望する住民については自己責任で避難してほしい。